ルッカ市視察訪問

（平成 30 年 11 月 5 日～9 日）

報告書

目次 1P

1.ルッカ市視察概要

1-1.視察目的等 2P

1-2.視察出張者等 2P

1-3.スケジュール 3P

2.ルッカ市視察内容

2-1.11 月 6 日（火）の視察内容 4P

2-2.11 月 7 日（水）の視察内容 8P

3. 総論 11P

1. ルッカ市　視察概要

1-1. 視察目的等

イタリア・ルッカ市は人口約 9 万人。フィレンツェから車で約 60 分、ピサから車で約 30 分のイタリア共和国トスカーナ州ルッカ県の県都である。ルッカ市との都市間交流については、国立市の桜の子孫（実生櫻）が寄贈植樹されていることを機に、ルッカ市より代理人を通じて交流の意向が伝えられていたところであるが、これを受け、先方に国立市の魅力を知ってもらうこと、交流の意向が伝えられていたルッカ市側の意思をあらためて確認することなどを目的として、平成 30 年 11 月 5 日（月）～9 日（金）に市長以下 3 名がルッカ市を訪問した。3 泊 5 日の旅行行程中、ルッカ市には 6 日（火）および 7 日（水）の計 2 日間滞在した（初日：フィレンツェ泊。最終日：時差による機内泊）。

1-2. 視察出張者等

視察出張者　計 3 名

国立市役所

国立市長　　永見 理夫

政策経営部　政策経営課長　黒澤 重徳

政策経営係主任　齋藤 隼人

コーディネーター

日伊櫻の会運営委員長　沢辺 満智子氏

現地通訳

中川 章子氏（日伊櫻の会会員・フィレンツェ在住）

1-3. スケジュール

日程	内容	移動手段
11月5日(月)	08:30　成田空港集合 10:55　AF275（パリ経由）にて成田発 19:35　フィレンツェ空港着 空港より専用バンにてホテルへ移動 21:00　ホテル着	AF275(成田/10:55　パリ/15:40) AF1766(パリ/17:55 フィレンツェ/19:35) 専用バン
11月6日(火)	08:00 ホテル出発 専用バンでルッカへ移動 09:30 ルッカ市内ホテルチェックイン/荷物預け 10:00 ルッカ市庁舎訪問 Tambellini市長面会 11:00 ルッカ市壁、桜植樹場所、サンフレディアーノ教会、サン・マルティーノ大聖堂など市内視察 12:30　会食@Trattoria da Giulio 15:00　プッチーニ美術館訪問 17:30　ホテル着	専用バン(フィレンツェからルッカホテル、ルッカ市庁舎まで) 旧市街内は徒歩にて移動
11月7日(水)	08:30　ホテルにて朝食 10:00　ボッケリーニ音楽院訪問 11:00　Giglio劇場見学 12:30　ルッカ・イタリア料理学院訪問及び会食 15:30　ルッカ漫画学校訪問 17:30　ホテル着	専用バン(ルッカ・イタリア料理学校、ルッカ・マンガ学校への移動に使用) 旧市街内は徒歩にて移動
11月8日(木)	8:30　ルッカホテル発　バンにてフィレンツェへ移動 9:30　フィレンツェ着 フィレンツェ市街地見学 11:30　昼食 13:00　フィレンツェ空港到着 15:10　AF1567（パリ経由）にてフィレンツェ発	専用バン(ルッカからフィレンツェ、及びフィレンツェ市内、フィレンツェ空港まで) AF1567(フィレンツェ/15:10 パリ/17:00) AF274(パリ/23:20　羽田/19:25（11/9）)
11月9日(金)	19:25 羽田空港着　解散	

2. ルッカ市 視察内容

2-1. 11月6日（火）の視察内容

Alessandro Tambellini市長との面会　於：ルッカ市庁舎

ルッカ市庁舎(Palazzo Orsetti)にてTambellini市長と面会し、意見交換を行った。

ルッカ市は近隣都市がフィレンツェ共和国などの支配下に置かれる中でも、長年独立を保ち続けた街であること、またその独立を支えた財源が絹産業であったことについて説明を受けた。また、現在のルッカ市は、紙生産、及び紙を作る機械製造が中心産業であること、その産業に従事する人口が約1万人に及ぶことについて説明を受けた。ルッカ市には、紙生産、紙を作る機械製造業以外に、タバコ（トスカーナ葉巻）産業がある。紙産業の盛んなルッカ市は、ビエンナーレとして紙作品によるアートフェアを隔年で開催しており、奇しくも2020年のテーマは「日本」であるとのことであった。是非日本のアーティストからも応募して欲しいとの打診があった。

永見市長より国立市の概要を資料と映像（市制施行50周年記念空撮映像及びPlay Me, I'm Yours Kunitachi 2018）により説明、国立市が文化芸術に力を入れた街づくりを行おうとしていること等を伝えると、Tambellini市長より国立市とルッカ市との交流を推進することに賛意が示された。ルッカ市は、音楽教育及びプッチーニを中心とした音楽文化を通じたまちづくりを大いに推進しているとのことである。

意見交換が終わった後、市庁舎が置かれているオルセッティ宮殿(Palazzo Orsetti)の建造物についてTambellini市長自ら説明いただいた。中世時代の宮殿を基礎としながら、16世紀に建造されたPalazzo Orsettiは、様々な絵画や装飾に彩られ、また12世紀頃よりルッカ市の中心産業が絹産業であったことを象徴するように、絹織物のテキスタイルが壁に装飾されている。数ある部屋のうちの一つ「Sala Verdi」(緑の部屋)は、緑色のシルク生地で壁やカーテンが装飾されていることからそのように呼ばれているが、現在は、人前結婚式の場所として使用されている。ルッカ市ではLGBT同士の結婚を認めており、教会

を使用できないLGBTのカップルのために開放しているということであった。この方針決定はTambellini市長によってなされたものであるとのことであった。

Tambellini市長との桜植樹場所視察及び市内散策

Tambellini市長のアテンドの元、下記の施設を視察訪問した。

・ 桜植樹場所（市営ホステル Ostello San Frediano）

日伊櫻の会により2010年に寄贈植樹された国立市由来の桜は、現在約5～6mと元気に成長しており、2都市間の交流の証となっている。今後の交流において、例えばルッカ市に国立市の子ども達を短期派遣し、イタリアの文化を学ぶ機会を持たせるような交流の可能性について伺ったところ、「こちらで１週間程度のプログラムを組み、この市営ホステルを宿泊場所として用意する」といった非常に具体的な提案を返していただいた。

・ サンタマリア・コルテオルランディーニ教会（Chiesa di Santa Maria Corteorlandini）

12世紀に建てられたロマネスク様式の教会。

・ サン・フレディアーノ教会（Basilica di San Frediano）

12世紀に建てられたロマネスク様式の教会。Amico Aspertiniによる絵画「ヴォルト・サントの移動（Transporto del Volto Santo)）など、貴重な美術品が複数置かれている。

・ サン・マルティーノ大聖堂（La Cattedrale di San Martino）

まちの中心的な教会で、中世時代の巡礼のメッカ。木彫りのキリスト磔刑像「ヴォルト・サント（Volto Santo（聖顔））」が安置されている教会。

・ アンフィテアトロ広場（Piazza dell’Anfiteatro）

古代ローマ闘技場の形をそのまま生かした円形広場。2 日前まで行われていたヨーロッパ最古のコミックマーケットである「ルッカ・コミックス＆ゲームズ」のブースが残されていた。この広場の他にも、街のあちらこちらに広場がある。

・ 市壁

1周約4ｋｍ。中世のイタリアはそれぞれの都市が国家であったため、各都市にこのような市壁が配置されていたが、ルッカのように全体が残っているのは極めて貴重。市壁の上は遊歩道として整備されており、大学通りの歩道との親和性を感じさせる。観光客が徒歩や自転車で周遊している姿が見られる。市壁の外側には、幹線道路や高速道路、鉄道が通り、比較的新しい街並みが広がっている。

・ 街並み

市壁の内部は石造り・石だたみの街並みがそのまま残っており、中世のイタリアを歩いているかのような感覚を味わうことができる。これは、日本に比べて地震が少なく石造りの建物が永く残ること、近くにフィレンツェやピサといった大きな観光地があるため過度な開発を免れてきたことなどがその理由とのことである。また、建築規制もかなり厳しいとのことであった。中世のイタリアはいわゆる都市国家群としての歴史があるが、近隣都市がフィレンツェ共和国などの支配下に置かれるなかにおいてもルッカは独立を保った。そのことも、中世の街並みが残った原因とのことである。

昼食会　於：Trattoria da Giulio

Tambellini市長ホストのもと、ルッカ市内のトラットリア（イタリア語で「気軽に入れる、比較的小さくて大衆的なイタリア料理店」）にて昼食会が執り行われた。

ルッカ市からは、次の方々が参加された。

ルッカ市側参加者：Alessandro Tambellini 市長
Giovanni Lemucchi 副市長
Luca Galli 部長（Capo di Ufficio di Gabinetto）

プッチーニ博物館（Puccini Museum）視察

昼食後、プッチーニ博物館を訪問した。当日は休館日であったが、Tambellini 市長の取り計らいで視察することができた。Tambellini 市長及びプッチーニ財団ディレクターの Massimo Marsili 氏に案内頂いた。

プッチーニは代々音楽家の家系の血筋を引いておりジャコモ家にまつわる資料、晩年 Turandot（トゥーランドット）を制作したピアノ、プッチーニ直筆の楽譜や手紙資料、オペラの舞台衣装などが展示されていた。ルッカ市はプッチーニを中心とした「音楽のまち」として世界に売り出そうとしているため、プッチーニの国際巡回展を企画しているので、国立市も巡回に加われないか、また、プッチーニのオペラの演目が国立市で上演できないかといった提案があった。

2-2. 11月7日（水）の視察内容

ボッケリーニ音楽院（Istituto Musicale Luigi Boccherini）への視察訪問

ボッケリーニ音楽院ディレクターのFabrizio Papi氏よりボッケリーニ音楽院についての説明を頂いた。国立の音楽学校でありながら、事実上の運営はルッカ市が担っているとのことであった。過去、日本からも留学生が音楽院に来ていたこともあり、国立音楽大学との単位交換留学などの交流について前向きに検討できる旨ご意見頂いた。

ルッカ市側参加者：Fabrizio Papi ディレクター（ボッケリーニ音楽院）
Giovanni Lemucchi 副市長
Luca Galli 部長（Capo di Ufficio di Gabinetto）
Luigi Viani マネージャー（外交部門）

ジリオ劇場（Teatro del Giglio）の視察訪問

ルッカ市の Giglio 劇場を Lemucchi 副市長らのアテンドにより見学させて頂いた。プッチーニが毎回座っていた席などについても案内頂いた。劇場の収容人数は、約750人ほどである。

当日は市内の中学生に対する職業教育の一環として、ルッカ市の主要産業である紙生産機械産業についての紹介イベントが行われている最中であり、Tambellini 市長と産業会長がイベントの冒頭に中学生向けに講演を行っていた。先述の通り、人口約9万人のルッカ市のうち約1万人が従事する紙生産機械産業は、市の要の産業である。この主要産業の担い手が現在不足気味であることから、将来的に地域の子ども達がこの産業に従事することを促進する内容となっていた。また、映像や寸劇等を交え中学生の興味をひく工夫が施されていた。

ルッカ市側参加者： Giovanni Lemucchi 副市長
Luca Galli 部長（Capo di Ufficio di Gabinetto）
Luigi Viani マネージャー（外交部門）

昼食会　於：ルッカ・イタリア料理学院（Scuola Internazionale di Cucina Italiana di Lucca）

昼食は、ルッカ・イタリア料理学院を訪問し、これまでルッカ市側の代理人として尽力いただいてきたGianluca Pardini校長と再会した。

ルッカ市側参加者：
Gianluca Pardini 校長（ルッカ・イタリア料理学院）
Giovanni Lemucchi 副市長
Luca Galli 部長（Capo di Ufficio di Gabinetto）
Luigi Viani マネージャー（外交部門）

ルッカ料理のコースをいただきながら懇談を行った後、Gianluca 校長、Lemucchi 副市長、永見市長がそれぞれ今後の交流に向けて挨拶を述べ、ルッカ・イタリア料理学校にも植樹されている国立市由来の桜（3 本植樹されている）の前で記念撮影が行われた。

ルッカ・マンガ学校（Lucca Manga School）訪問

続いてルッカ・マンガ学校を訪問し、学校長の Caterina Rocchi 校長と面会した。Caterina　Rocchi 校長は日本に留学経験があり、毎年日本を訪れ、日本の出版社や作家などとの交流を深めているということである。

現在マンガ学校は拡張工事中であり、学校滞在中の生徒たちが学校で寝泊まりできるよう整備しているということであった。ルッカ・マンガ学校はイタリア国外からもマンガに関心のある学生が訪れており、現在の生徒数は約 400 人。先述の「ルッカ・コミックス＆ゲームズ」にもブースを出しているほか、ワークショップを開催しているとのことであった。授業では、日本から招聘した先生がクラスを持つこともあるということであった。また、将来、学校の庭に日本の桜を植えたいという Rocchi 校長の希望も伺った。

3．総論

ルッカ市にはわずか2日間の滞在であったが、想像をはるかに上回るほど多くの魅力を持った街であった。中世ヨーロッパの歴史・文化・芸術がそのまま体感できるルッカは、今後国立市が交流を推進していくにふさわしい都市であると言える。

実際に市民間の交流を考えた際には、そのまちの治安の良さも重要なポイントとなるが、先述の通り過度に都会化された大都市ではないこともあって非常に治安も優れており、夜間に日本人だけで市内を歩いていても、日本人が海外で覚えるような身の危険を感じることもない。 昨年G7外相会談がルッカ市を会場に行われたことも納得できるものである。

また、プッチーニやボッケリーニといった偉大な音楽家を輩出した文化芸術のまちであることも、言うまでもなくルッカの最大の魅力のひとつである。ルッカ市は今後、プッチーニを中心とした「音楽のまち」として世界に発信していこうとしており、ボッケリーニ音楽院も、国立音楽大学グループとの交流に非常に前向きな反応であった。さらには、ルッカ・マンガ学校の校長という、親日家でありマンガという文化芸術に造詣のある方とも関係を築くことができた。

国立市は、まちづくりの一環として「文化と芸術が香るまち」の実現を目指しており、本年３月に「国立市文化芸術条例」を制定したところである。その基本方針の中にも「文化や芸術を通じた海外との多様な交流の展開」を掲げており、ルッカ市との交流は、まさに「文化と芸術が香るまち くにたち」の実現において、大きな推進力となるであろう。特に、国立市第5期基本構想に掲げる「次世代の育成」という観点からは、英語圏にはない文化的な歴史の重みがあり、中世ヨーロッパの街並みを体感し、本物の文化芸術に触れるといった体験ができるルッカ市への児童青少年の派遣は、今後、グローバル人材というものを考えた際に非常に有意義なものになるであろうと考えられる。

他方、国としてのイタリアに学ぶことも多いと考えられる。例えば、イタリアは世界で最初に精神病棟を廃止した国でもある。また、イタリアでは幼稚園から大学まですべての教育段階でインクルーシブ教育が保障されている。これらの歴史やその後の取組を学ぶことは、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくるための貴重な機会であり、国立市が 40 年以上にわたり基本理念としている「人間を大切にする」まちづくりに通ずるものである。

今回の訪問では様々な出会いがあったが、全ての場所で大変な歓迎を受けた。国立市とルッカ市との交流に関する話し合いの場では、ルッカ市のどなたからも非常に前向きな言葉が返ってきた。ルッカ市長を始めルッカ市の方々、ルッカ・イタリア料理学院の Gianluca 校長、ルッカ・マンガ学校の Caterina 校長といった日本とイタリアをつなぐ架け橋として様々な分野で活躍されている方々と出会い、前向きな意見交換ができたことも大きな成果である。

今回、市長が実際に訪れることで、ルッカ市が国立市との交流に相応しい都市であることを確認することができた。また、訪問によりルッカ市の方々との直接の関係が構築できた。ルッカ市側からは「協定締結にあたっては具体的な交流内容等も盛り込めると良い」等の発言もあった。今後の交流において、例えばルッカ市に国立市の子ども達を短期派遣し、イタリアの文化を学ぶ機会を持たせるような交流の可能性について伺ったところ、「こちらで１週間程度のプログラムを組み、この市営ホステルを宿泊場所として用意する」といった非常に具体的な提案を返していただいた。また、ルッカ市はプッチーニを中心とした「音楽のまち」として世界に売り出そうとしているため、プッチーニの国際巡回展を企画しているので、国立市も巡回に加われないか、また、プッチーニのオペラの演目が国立市で上演できないかといった提案もいただいた。

今回の訪問を機にルッカ市との交流に向けた取り組みをステップアップし、今後の交流についてルッカ市との間でさらに協議を行っていくために、具体的な交流内容とそれによる効果をさらに検討し、広くこれを議会、市民の皆様と共有するための取組を行ってまいりたい。そして、ルッカ市との交流を長きにわたって実りあるものとしていくためには、行政だけでなく、市民や関係団体の理解と協力、参加が必要不可欠である。さらなる機運醸成に努めてまいりたい。

以上